

# 「スマートグラスが拓く重症 COVID-19 患者を対象にした医学部学生臨床実習」 についてのお知らせ

－令和 4 年 1 月 1 日～令和 4 年 7 月 31 日までに当院集中治療部でスマートグラスを使用した  
臨床実習を実施した医師ならびに受講した学生のみなさんへ－

<研究承認番号：C2022-008>

研究機関名 東京医科歯科大学大学院生体集中管理学分野  
研究責任者 東京医科歯科大学大学院生体集中管理学分野 講師 野坂宜之  
分担研究者（分野長） 東京医科歯科大学大学院生体集中管理学分野 教授 若林健二  
分担研究者 東京医科歯科大学 統合国際機構 教授 高田和生

## 1. 研究の意義と目的

本研究の目的は、スマートグラスを用いた集中治療部での臨床実習の利点と今後の改善点を明らかにすることです。将来再び発生しうる COVID19 パンデミックのような状況でも学生実習が可能な仕組みをあらかじめ確立しておくことを目指します。

## 2. 研究の方法

- 1) **研究対象者**：令和 4 年 1 月 1 日から令和 4 年 7 月 31 日までに東京医科歯科大学病院集中治療部でスマートグラスを使用した臨床実習を実施した医師 2 名ならびに同実習を受けアンケート調査に協力した当学の学生 8 名です。なお性別や学年は問いません。
- 2) **研究期間**：東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会承認後～令和 5 年 3 月 31 日
- 3) **研究方法**：日常の学生臨床実習の向上のために行っているアンケート調査の結果を検討し課題を抽出します。本研究のために研究対象者に対して新たに実施する検査や診療行為は一切ありません。
- 4) **情報の保護**：当学研究者以外にデータを利用するものではありません。職場・学生アンケートは無記名で行っているため、特定個人のアンケート結果を除外することはできません。なお、収集した情報は東京医科歯科大学大学院生体集中管理学分野にて特定の関係者以外がアクセスできない状態で、研究期間終了後または論文発表後 10 年間厳重に管理し、その後復元不可能な状態に処理して廃棄します。
- 5) **予測される結果（利益・不利益）について**：本研究に参加していただくことでの直接の利益・不利益はありません。

## 3. 利益相反：

利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか、研究結果の公表が公正に行われぬのではないかなどの疑問第三者から見て生じかねない状態のことを指します。本研究は東京医科歯科大学病院集中治療部の運営費を用いて行われます。患者さんならびに医療スタッフが本研究に負担する費用ならびに本研究に参加することによる謝礼は一切ありません。研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、東京医科歯科大学利益相反マネジメント委員会に報告し、確認を受けています。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。

<データ管理責任者・問い合わせ・連絡先>

東京医科歯科大学大学院生体集中管理学分野 〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45  
氏名：野坂 宜之 電話：03-5803-5959（医局）  
対応可能時間帯 平日 9:00-17:00

<苦情窓口> 東京医科歯科大学医学部総務係 03-5803-5096（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）